

# 北田原地区の現状等について

# 1. 学研都市における北田原地区の位置づけ

## (1) 関西文化学術研究都市建設促進法

### ○国の基本方針（法第3条）

#### ①文化学術研究地区の配置

高山地区、北田原地区

#### ②文化学術研究地区の整備の方針

##### I 高山地区

奈良先端科学技術大学院大学を中心に、情報通信、バイオサイエンス等の先端的な科学技術分野を対象とする文化学術研究施設等及び住宅施設の整備を推進するとともに、自然環境をいかした公園緑地の整備を図る。

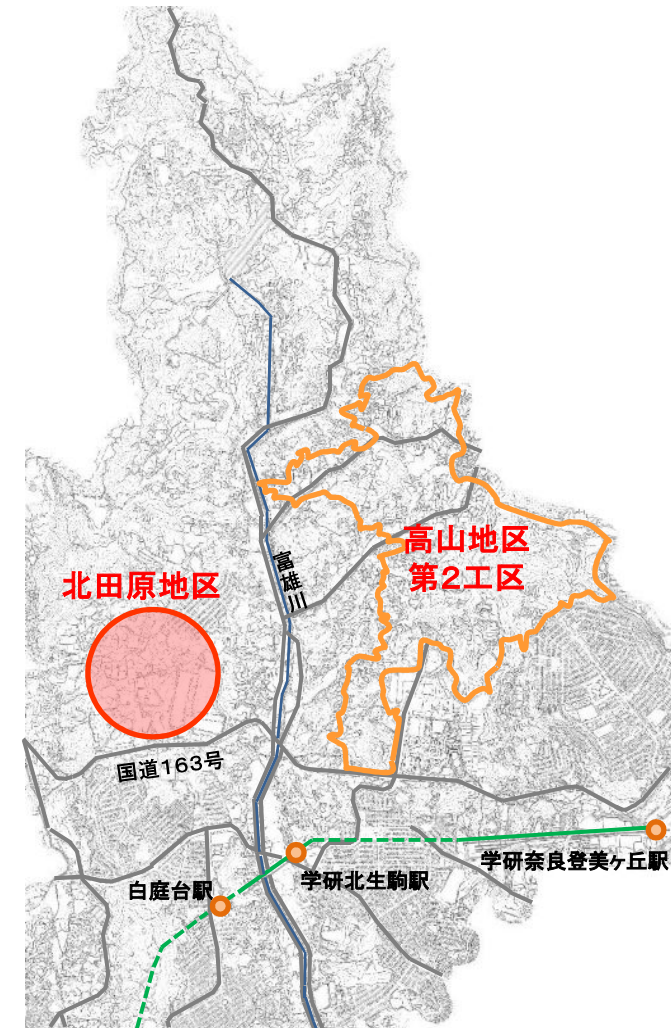
##### II 北田原地区

今後の社会・経済情勢や需要を勘案した上で、整備に向けた具体的な検討を行う。

## (2) 関西文化学術研究都市（奈良県域）の建設に関する計画

### 北田原地区の整備の方針

高山地区の機能と関連した産業施設及び文化学術研究施設等の整備を図る。



## 2. 北田原地域(準工業地域)の概要

企業数：約110社

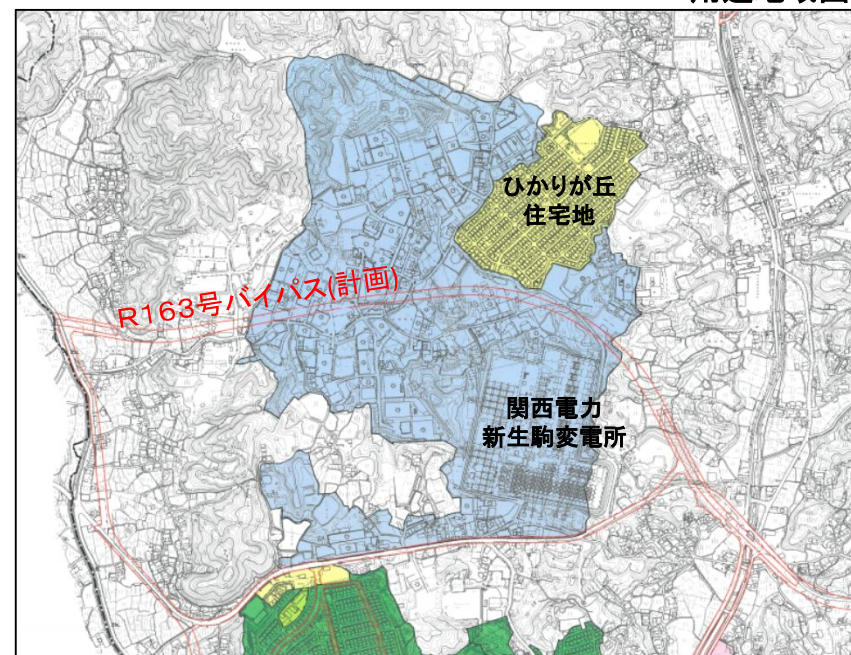
用途地域：準工業地域（約115ha）

- ・ 地区北東部はひかりが丘住宅地に隣接
- ・ 地区中央部を学研連絡道（計画）が横断

### <沿革>

- 昭和43年
  - ・ 関西電力新生駒変電所開設
  - ・ 既存道路沿道で複数の工場立地
- 昭和55年頃
  - ・ 「北田原商工会」（改名設立）
- 昭和47年
  - ・ 準工業地域用途指定
- 昭和50年代
  - ・ 既存道路沿道で工場立地が進み、工場用地の民間開発も各所で行われる。
- 平成6年
  - ・ 「北田原工業会」（改名）
- 平成28年
  - ・ R163から地区内に至る北田原南北線開通
  - ・ 「学研生駒工業会」（改名）：地区呼称「学研生駒テクノエリア」

用途地域図





# 北田原地域周辺現況

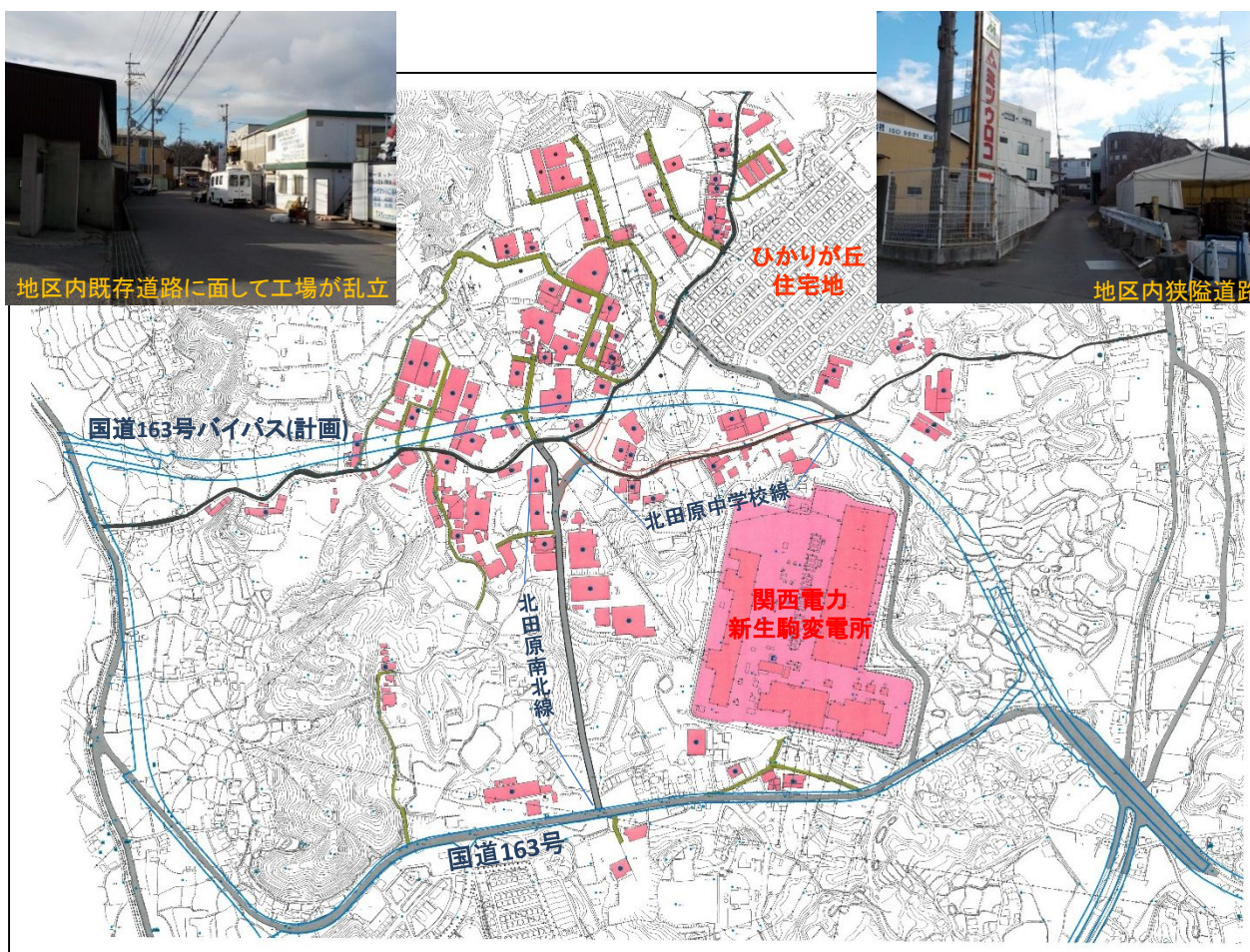
—— 現準工業地域





### 3. 北田原地域(準工業地域)の現況

- ・昭和45年頃から、民間主導で個々に開発が進められてきた地域で、道路、下水道、区画整理等の計画的整備がなされないまま推移
- ・平成28年に国道163号からのアクセス道路として、北田原南北線を整備、供用。現在、地区内道路の北田原中学校線の一部区間で拡幅整備事業中



民間開発による区画形成



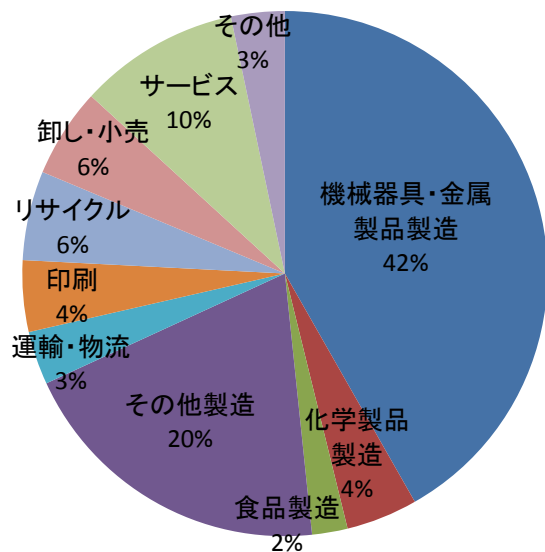
開発による道路(行き止まり道路)



平成28年に整備開通した北田原南北線

## 4. 立地企業の現況

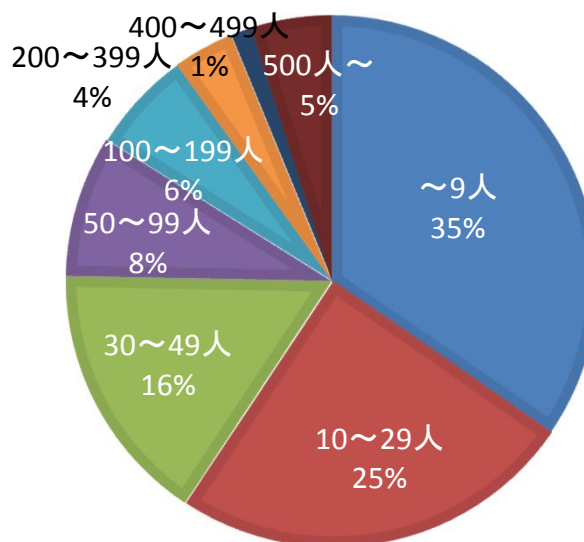
○業種別企業数割合



※製造業が北田原地区の企業全体の約7割を占めている。

※参考：学研生駒工業会HP及びガイドブック

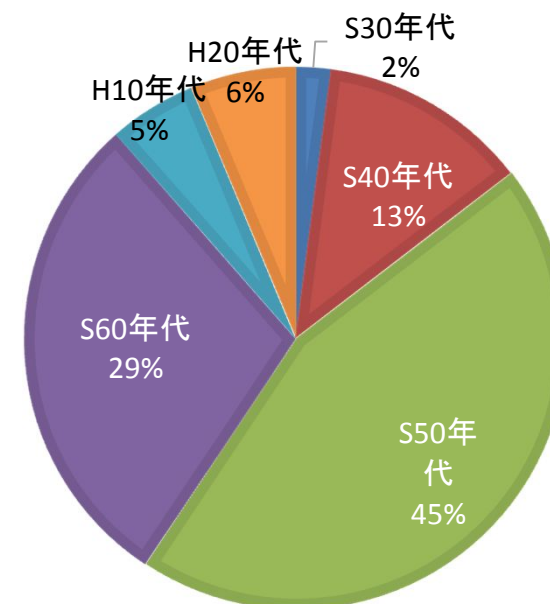
○企業規模(従業者数割合)



※当該地区以外にも事業所を有する企業については、その総数。

※参考：学研生駒工業会HP、ガイドブック、各社HP

○企業立地年代割合



## 5. 北田原地区の課題と今後の方向性(案)

### <現状における課題>

- 既に機械や金属の製造業等の工場が集積した企業団地として形成されているが、計画的な土地利用がなされていない。
- 地区へのアクセス整備は行っているが、地区内道路は、狭隘、見通しの悪い箇所もあり、大型車の通行に支障がある等インフラ整備が十分とは言えない。
- 文化学術研究地区としての区域及び整備方針など、法的な位置付けが明確になっていない。

### <今後の方向性(案)>

#### ①学研クラスターとしての整理

高山地区とともに、学研クラスターとしての位置づけ、役割を明確にし、クラスターとしての整備区域、土地利用方針を検討する。

#### ②魅力ある産業集積ゾーンへ整備(一部、現行都市計画マスタープラン引用)

地区内を横断する学研連絡道整備計画に対応して、引き続きの道路網の整備や、周辺の自然環境や住宅地と調和のとれた魅力ある産業集積ゾーンとしての土地利用を学研高山地区との連携を視野に、誘導・整備を図る。